



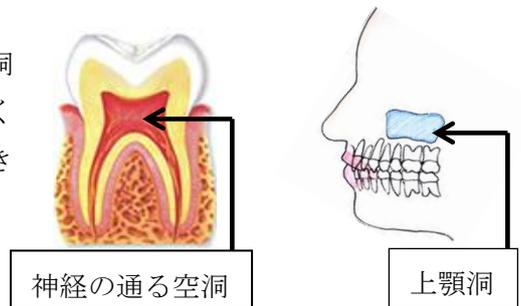
昔から「古傷が痛むと雨が降る」といわれますが、天気が悪く歯が痛く感じたことはありませんか？

歯科では「航空（気圧）性歯痛」といいます。今回は気圧によって歯の痛むメカニズムや予防法についてご紹介致します。

### Q どうして気圧で歯が痛むのでしょうか

「気圧の変化」といえば、高層ビルのエレベーターや飛行機内で耳がキーンとなる事、高い山に登った時にお菓子の袋がぱんぱんになるといったお話を聞いたことがありますでしょうか。実は歯の中でも同じようなことが起こっているのです。

歯の中には神経の通っている空洞があり、鼻の両サイドには上顎洞と呼ばれる空洞があります。これらの空洞は通常外の気圧と等しくなっています。けれど、急激に外の気圧が下がると変化に対応できずに圧がかかり、一時的に痛みがでてしまうことがあります。このため、大きな空港には必ず歯科医院があります。



### 特徴

天気が悪くなった為に歯が痛くなった場合、歯科に受診する方は少ないと思います。気圧性歯痛の特徴としては一時的な痛みであることが多いからです。そして激しく歯が痛む場合は虫歯であることがほとんどです。健康な歯や適切に処置された歯には起こりにくいのです。また、慢性の炎症があると急性化することもあります。

### 予防策

予防策としては、虫歯や歯周病の予防・治療をおこなって頂く事。また、睡眠不足や体力が低下しているときに歯の痛みは起こりやすいので日頃から体調にはお気をつけて下さい。

台風の多い季節ですから、虫歯や治療途中の歯がある方は痛みが出てしまう前に早めに歯科医院に通い治療を受けて頂く事をお勧めします。

鎮痛剤を飲んでも効かずに痛みが持続する場合は歯科医師にご相談下さい。

